

構想の背景を知って安心、納得して推進

G I G A スクールを 乗りこなす ⑤



「交流会」の開催で 多様な考え方に触れる機会づくり

應田博司

GIGAスクール構想推進委員会
学校支援部会 交流会サブ部会長

【監修】一般社団法人ICT CONNECT21

GIGAスクール構想推進委員会 情報発信部会

運営中のGIGAスクール構想の情報集積サイト「GIGA HUB WEB」

URL : <https://giga.ictconnect21.jp/> (「GIGAスクール情報」で検索)

教育現場の従来のICT環境と比べて、児童・生徒1人1台端末、1人1人アカウントによるクラウド利用など、新しく検討すべき要素を早急に進める——まさに前代未聞ともいえるGIGAスクール構想を、いかに円滑にかつ有効的に準備しその運用および活用を進めていくか、一般社団法人ICT CONNECT21では、教育現場をさまざまな観点から支援すべく、GIGAスクール構想推進委員会が2020年5月に発足しました。

そのなかで、教育現場に必要なICT環境の調達・導入から運用までトータルに支援していくことを目的に学校支援部会が立ち上がり、調達・導入サブ部会、QAサブ部会、交流会サブ部会の「3サブ部会」を位置づけ、各サブ部会が連携を図りながら、各フェーズにおける課題に対処していくべく活動がスタートしました。

2020年度「交流会サブ部会」の活動

ひとえに児童・生徒向け1人1台端末を中心としたICT環境整備といっても、ハード、ソフトウェア、関連サービス等の調達・導入をはじめ、導入したICT環境をさせるようにするための準備、学校への周知・研修、保護者への啓発など、多様な切り口で運用を見据えた検討を行う必要があります。

また、当然ながらGIGAスクール構想の目的は単なるICT環境整備ではなく、その環境を活用してどのような教育を推進し、どのような姿を目指していくのか、そこが重要になると考えます。根幹となる教育方針に基づき、具体的に計画立てて必要な環境を整備・運用していくことが求められます。

そうしたことをしっかりと見据えながら、必要な情報を主体的に収集しつつ、求心力をもって一気に推進していく自治体がある一方、そもそも何をどう検討すべきかといったところから悩む自治体は少なくなかったのが実情でした。

そこで、学校支援部会内の「3サブ部会」が密に連携し合い、まずは調達・導入時においてどのようなことを想定すべきかということに焦点を絞り、全国の教育関係者に参考にしたいだけでなく、セミナーを開催することとなりました。

ちなみに本セミナーでは、ICT活用教育アドバイザー事業と連携し、事務局長にもご参加いただき議論を行うことができました。

その内容を受け、昨年9月開催のEDIX東京では、多数の関係者の協力のもと、より具体的な内容に関して3日間を通して多数のセミナーを実施し、全国より多数で参加いただけました。

交流で多様な考え方に触れ 学校現場に還元してほしい

秋以降は、運用を想定した内容を企画していきました。企画にあたり、自治体によって実態や考え方は多様であり、まずは多様な考え方に触れていただくことが重要であると考えました。そこで、先進的に取り組みを推進されている自治体、学校の実態を把握しつつ、自治体の実態に照らし合わせ模索しながら準備されている自治体、教員集団が創意工夫を凝らしながら1人1台環境の有効活用を促進すべく校内で中心となっている先生など、多様な方々にご登壇いただき交流会を実施してまいりました。

会を重ねるごとに、形式にこだわらないフランクなやりとりや、時に教育論を語り合うなど、立場を超えて教育について熱く語り合うことができ、GIGAの枠を超えたとすばらしい時間を過ごせたと感じております。

「交流会での質疑応答(一部)」3自治体(新潟市・つくば市・奈良市)の対談より

●ICTが苦手な先生の意識を上げる取り組みは？

「苦手な先生もいるが、やっている先生を見て、子どもたちの顔を見て、楽しんでる様

子を見ることが大事。ICT推進委員の授業を公開している。まだ試行錯誤の状況」(つくば市総合教育研究所・中村さま)。

●端末の持ち帰り運用の実態は？

「問題はたくさんあるが、保護者、生徒を巻き込みながらいろいろやっている。すべてを教員がやるのはむずかしい。子どもを信じることも大事」(立命館守山中高・加藤先生)。

●持ち帰りは、文科省からの提言では緊急時への対応を想定していたが、GIGAの目的からすると平常時からやるべきでは？

「最初から持ち帰り前提としてやってきている」(新潟市・片山さま)。

「シームレスな学びをすることを考えている」(つくば市・中村さま)。

「始まったときから議論、コロナ禍の影響もあり日常的に反転学習など多岐に活用している」(奈良市・谷さま)。

交流会サブ部会としては、そのときどきの教育現場の課題やニーズに答えられる活動を実施すべく、探り探り推進してきたのが実態ではあります。セミナー参加者からは、登壇者とのコミュニケーションや参加者の生の声を数多く聞ける貴重な機会となったといった意見や、これまでつながることのなかった人とつながること、より多くの学びを得る

ことができたといった意見など、たいへんうれしい声を多数いただきました。

結果、2020年度では延べ1,350人の方にご参加いただくことができました。

今年度の交流会活動について

昨年度の流れを受け、今年度はいよいよGIGAスクール構想の運用が本格スタートするいわば「GIGA運用元年」といえます。

文部科学省も3月12日に「GIGAスクール構想の下で整備された1人1台端末の積極的な活用等について(通知)」を发出するなど、活用促進に向けて本格的に動き出しました。その状況を踏まえ、学校支援部会としても支援できないかということになり、今年5月に開催されたEDIX東京にて、文部科学省通知内容を網羅するかたちで「二セミナー」を実施しました。

交流会サブ部会としましては、引き続き文部科学省通知内容に沿ったかたちで、年間を通して企画・運営していく予定です。並行して、定期的に全国の教育関係者にご登壇いただき、推進状況をご報告いただきつつ座談会を実施する企画を検討中です。

全国の教育関係者の皆さまにとって実りある会を企画・運営していくべく今後も邁進してまいります。